

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.97 2024.6.20
 発行 寝屋川市自然を学ぶ会
 会長 山田 晃
 事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9
 千田 正喜 宅
 TEL 090-4036-0719



足元の野草もおもしろい 定例自然観察会 淀川・点野野草地域 2024.5.5

蝶

新谷 彰久

まいあがる

まいおりる

おいかける

おいかけられる

もつれあい

からみあい

おりるでもなく

おりないでもなく

いま小学生とよみたい70の詩 3. 4年 たんぽぽ出版 刊

目次

- (2) 行事報告 1 総会・記念講演
- (3) 行事報告 2 私市植物園・東部丘陵
- (4) 行事報告 3 淀川河川公園点野野草地域
- 行事報告 4 みんなの掲示板 宇陀「又兵衛桜」
- (5) みんなでつくる自然資料室だより
 - 子ども自然シリーズ講座 ①ヨーヨーかざぐるま
 - ②ブンブンごま ③紙とんぼ
 - 大人自然シリーズ講座 ①木のブローチ(マガモ)
 - おが研修会 京都府立植物園
- (6) 自然塾 ①始めよう自然観察 ②春の野草
 - ③身近なの樹木 ④水生生物
- 野外活動部との協働活動 森の探検 自然観察と環境整備①
- (7) 私の散歩道「いきものは不思議ばかり」
- 参加・協力活動 高宮田んぼの楽校、市環境フェア
- (8) 自然はすばらしい シダ植物シリーズ5「ベニシダ」
- (9) 自然界のふしぎ アンモナイトの不思議 1「アンモナイトのいわれ」
- (10) 私の自然観察 身近な昆虫45「くさむらようちえん」
- (11) 本の紹介「リスのエビフライ探検帳」・新会員紹介
- (12) 行事予定
 - 子ども自然シリーズ講座(4)(6)
 - 定例自然観察会 ③水生生物 ④下田原
 - みんなの掲示板 ③伊吹山 山室湿原

〈2024年度総会から〉

発足25年目の今年度も「自然はおもしろい」を幅広く!!

山田 晃

4月29日(土)に寝屋川市民会館第1会議室で、2024年度の総会と講演会を開催致しました。参加者43名。例年通り、昨年度の事業報告の後、今年度の活動計画が決まりました。

・自然観察会への積極的な参加を今年度も!

昨年度、身近な自然ガイドブック「秋の淀川」を発刊することができ、秋に淀川の自然観察会を実施することができました。春の淀川とは違った秋の淀川の自然について、オニグルミの果実を観察したり、クコやワタの花を観察してみんなで楽しみました。

今年度は、本会発足25年目、「自然はおもしろい」を幅広く進めていければと思います。身近な自然の不思議にチャレンジし、仲間と交流していきたいと思っています。



秋の淀川 観察会

・自然体験を子ども達と共に!

環境フェアをはじめフェット・エスポアールや市民ふれあいフェスタなど参加行事でも多くの子供達や市民の方々とも自然体験を楽しんできました。子供達と一緒に活動を共にすることは、より幅広い「自然はおもしろい」を広げ、深めることかと思えます。今年度もご協力よろしくお願ひします。



2023年度展示会のようす

そのために、会報発行の工夫や、ガイドブックの活用をすすめ、活動の記録の集約と交流のために第25回展示会を実施します。会員の皆様のご支援をお願いします。

〈2024年度 記念講演〉

シダ観察は楽しみ ~河内森周辺のシダ~発行に寄せて

講師 天野史郎さん



講演中の天野さん

講演では『シダ観察の楽しみ』をテーマに河内森周辺で見つけたシダについてわかりやすく、時には専門的に、時にご自身の心情も吐露されるなど興味深く聞かせていただきました。

南米(約3560種)や東南アジア(約4500種)に多いのは想像がつかいましたがヨーロッパはたったの150種とは思ひもありませんでした。因みに日本では約600種だそうで、多い方ですかね。カニクサはコンクリートなどの擁壁にへばりついているので雑草と見間違えますね。ハナワラビのお話では、発見した種の分類を巡っての論争は感情もこめてお話しされ、分類の仕方の難しさを感じると同時に、天野さんのシダに対する熱意が充分伝わってきました。

シダは目立たない植物ですが、天野さんの熱意溢れるお話を聞かれて私だけでなく参加されていた皆さんも明日にもシダ観察に出掛けられるのではないのでしょうか。

(中村清秀)

第8回自然観察会 私市植物園 3月20日(水・祝) 参加者40名(内子ども3人)
オガタマノキの花が咲いていました 田中 英明



オガタマノキ

中止かという怪しい雲行と気温が10度を切る肌寒い朝でしたが、40名もの参加がありました。

初めに向かったオガタマノキの花は、去年は散っていましたが、今年は可愛い姿で待っていてくれました。

次はシキミの花を見てから向かった河津桜とオオカンザクラは、ピンク系の花がきれいでした。去年は感動的だったヤエベニシダレとイトザクラはまだ蕾だったのは、少し残念でしたが、植物の季節の感じ方を知ることが出来ました。キンキマメザクラの花も可憐でした。

山野草では、期待のカタクリは曇りと低温のためか開いていたのは僅かでした。キクザキイチゲ、ミスミソウ、セントウソウ、イカリソウの花や



観察の様子

キクバオウレンの果実が見られてよかったです。

他に見られた花には、ヒサカキ、ウグイスカグラ、アブラチャン、ツノハシバミ、サンシュユ、トサミズキなどがありました。

ユリノキ広場でのティータイムで温まり、楽しい半日を過ごさせて頂きました。



ミスミソウ

第1回自然観察会 東部丘陵 4月23日(火) 参加者10名
今年もキツネアザミに出会えました！



キツネアザミ

集合時には、パラパラ雨が降っていましたが、10名の参加がありました。

寝屋川公園駅から出発し、道端のウンナンオウバイ、ケキツネオタン、オニタビラコなどを観察し、吉野池ではハルジオン、ニガナ、カキドオシなどおなじみの春の野草を見ることが出来ました。打上神社への道にはクサイチゴの花がいっぱい咲いていて、実ができるころに来たいと話しながら歩いていました。

東部丘陵に入ると、コメツブツメクサ、ギンラン、オオカワジシャ、キランソウなどが見られました。休耕地が多くなっており、畦のキツネアザミは見られませんが、2か所で出迎えてくれました。ため池のヤマフジは見事に咲いていました。畑の石垣には今年も白花のタツナミソウが見



テントウムシのマンシヨ

られました。丘陵地を下り始めたところに、テントウムシのマンシヨ(幼虫、さなぎ、成虫がたくさんいる)がありました。

コースの最後になる、いつものレンゲ畑は満開でしたが、残念なことに動物除けの電線が張られていました。近くで畑の作業をしていた方の話では、イノシシ、アライグマ、ハクビシンなどが出没するようです。東部丘陵も少しずつ様変わりしていています。



ヤマフジ

第2回自然観察会 淀川点野地域の野草 5月5日(日・祝) 参加者26名(内子ども1名)

ベニヒキヨモギを淀川で初確認



メリケントキンソウは?



ノハカタカラクサ

天気は良く気温も高く汗ばむ気候でした。本多さんより、足元にはびこっているメリケントキンソウの話があり、実のトゲトゲを確認しました。

点野ワンド整備地区まで、セッカニワゼキショウ、ノハカタカラクサ、ナヨクサフジ、ツボミオオバコ、オニグルミヤクワの小さな実など観察しました。

点野ワンド整備地区では、木陰に入ってひと休み。本多さんより、カンサイタンポポとセイヨウタンポポの違いなどの話がありました。戻る途中には珍しい白花のナヨクサフジが観られました。

古田さんが名前のわからない花があると持ってこられ、帰って木村さんが調べたとろ、地中海原産のベニヒキヨモギであることが分かりました。国内では17年前に徳島市で報告されており、淀川では今回初めて確認されたようです。



ベニヒキヨモギ

第1回みんなの掲示板 宇陀 カタクリと又兵衛桜 4月2日(火) 参加者25名

感謝・感激・感動



カタクリの群生

直前まで肌寒い日が続き、桜前線も停滞、開花宣言が大阪ではやっと3月30日に出たばかりの4月2日、25名の参加者とともに奈良宇陀へ。車窓から眺める桜はまだ1分咲きばかり。最初に訪れた森野旧薬園では、我々の気持ちを知ってか知らずか春が来ましたよと言わんばかりに斜面一面に咲いたカタクリの花が我々を迎えてくれました。園の守りをされている原野さんご夫婦が作業の手を止めて、花の名前や薬草の効能など色々と教えてくださいました。フクジュソウ、アミガサユリ、イカリソウ、ネコノメソウ等々。先人の知恵を受け継ぎ、伝統を残そうとする人々に頭が下がります。

近くのかぎろひの丘万葉公園で昼食。遊歩道の階段ではタチツボ

スマイル、広場ではシロバナタンポポを見つけました。

2年前に比べて観光客は少なく、やっぱり桜は咲いてないんやと思いつつ川べりを歩いて行くと、なんと8分咲き、いやもう満開かと思わせる又兵衛桜の姿が。見事な咲きっぷりに皆さん感動でした。淡いピンクの桜、濃いピンクの桃、その傍に白いコブシがあり、これらの花々を背景にパチリ。映えた写真が撮れました。

思わぬ満開の又兵衛桜に感謝、感激。

帰路、立ち寄った宇陀川の堤の桜並木で小休憩。ここは1分咲きでしたが、ツクシやノカンゾウなどを摘む参加者の姿にほっこり。

自然に触れることで、大きな感動と小さな幸せを得た観察会でした。



観察の様子



又兵衛桜

みんなでつくる自然資料室だより

◇子ども自然シリーズ講座

①ヨーヨーかざぐるま他 4月27日(土)

子ども7名(他17名)

知人が持ってこられた冊子を見て、スタッフが作成し、今日子どもたちと一緒に楽しみました。色紙1枚を型紙を使って、二枚の羽に切ります。後は、紐とビーズ等を組み合わせ



よく回るよ!

て完成です。紐を上下すると羽がくるくると回ります。「きれいに回った!」と何回も挑戦。6枚羽かざぐるまも作りました。

③紙とんぼ 6月1日(土)

子ども4名(他14名)

厚紙と竹串で紙とんぼを作ります。厚紙を型どおりに切り、竹串を取りつけてでき上がりです。時間があつたので、ストローを軸にした紙とんぼも作りました。出来たら、すぐに両手をすり合わせて飛ばしています。「けっこう飛ばせたから良かった」

「何個も作ったので、1人で作れるようになった」という感想がありました。



羽に色を付けている

②ブンブンごま 5月11日(土)

子ども6名(他19名)

回す紙に自分の好きな模様を付けます。両面に色を付いたら、紐を取りつけて完成です。手をタイミングよく引っ張ったり、弱めたりしてこまを回します。最初はできな



お父さんも一緒に

く回せようになり、うれしそうでした。2個のふたに紙を付けたブンブンごまも作りました。

◇大人自然工作シリーズ講座

①木のブローチ(マガモ) 6月7日(金)

参加者28名

例年は秋に実施していたイベントです。変更しても申込が多く、午後以降にお願いした方が多数おられます。今日は「マガモ」のブローチなので、カモにつ

いての話の後、刃物の使い方の注意をうけ開始しました。講師の森本さんやスタッフの手助けもあり、色を付けて完成。皆さん、胸や鞆等に付けて満足そうに帰られました。



けがしないように

◇自然資料室スタッフ研修会

「京都府立植物園」

～バラ園・アジサイ園が見頃～ 6月12日(水) 参加者15名



園内では

京都植物園は、開園100周年を迎え多くの方が入園されていました。雲一つない晴天で、予報通り30度を超える暑さの中、アジサイ園・バラ園を観察しました。途中、竹やぶの中でキヌガサタケを観察。昼食後、温室の植物を観察した後、帰りにジャコウアゲハを見

□ 第7期 ねやがわ自然塾 毎回木曜日実施（受講生12名）

<p>第1回講座 4月18日 「始めよう自然観察」</p> <p>①開講式 ②自然観察の楽しみ方 ③寝屋川市の自然</p>  <p>学習室にて</p>	<p>第2回講座 4月25日 「春の野草」</p> <p>①東部丘陵の自然について ②東部丘陵の野草の観察</p>  <p>東部丘陵で観察</p>	<p>第3回講座 5月16日 「身近な樹木①」</p> <p>①樹木の葉の形から名前を調べる ②寝屋川公園の樹木を観察</p>  <p>樹木の観察</p>	<p>第4回講座 6月6日 「水生生物」</p> <p>①生物多様性・水生生物の話 ②センター内の水生生物などを観察</p>  <p>水生生物の観察</p>
---	---	---	---

野外活動センターとの協働活動

◇第1回自然観察と環境整備

6月4日（火）

協力者 23名



作業の様子

天気も良く23名もの参加がありました。蛍広場への階段のそうじ、寒谷池まで・炊事場前の広場・天体ドーム周りの木の剪定と草刈、炊事場の溝そうじ、昼食作り、に分かれて作業をし、心地よい汗をかきました。昼食は東森シェフのカレーとサラダを美味しくいただきました。



オカトラノオ

昼からは、山田さんより野活の歴史的なことと所長からの話がありました。その後、森の広場まで歩き、ウツギ、オヤブジラミ、フユノハナワラビ、ウマノズクサ、オカトラノオ、タツナミソウなど観察しました。また、タカノツメの枝を使った刀作りも楽しみました。

◇野外活動センター行事への協力

<p>めぐみ幼稚園 5月22日(水) 園児30名 (年長) 協力者4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アラカシの葉の恐竜 ・森の広場・・・ささぶね ・どんぐりペンダント 	<p>成美の森こども園 5月27日(月) 園児41名 (年中・年長) 協力者2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーヨーかざぐるま ・クマさんペンダント ・アラカシの葉の恐竜 ・オオバコの相撲 	<p>寝屋の森こども園 5月30日(木) 園児32名 (年中・年長) 協力者4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クマさんペンダント ・アラカシの葉の恐竜 ・虫の観察 ・オオバコの観察 
--	---	---

私の散歩道

いきものは不思議ばかり!!

宇気 京子



クチベニマイマイ

私は小さいいきものが好きで、カタツムリなど飼ったりしていました。カタツムリはニンジンやキュウリも食べますが、紙も食べたりコンクリートを食べたりして、カタツムリって不思議だなあって思っていました。

今、家の水槽には、かわいい小さな魚もいます。この水槽にいるのはメダカと知っているのに、カダヤシのような気もしていました。カダヤシだったらどうしよう。カダヤシは飼ってはいけないのに……。とっていたら小さな魚の中に卵も持っているのが見つかりました。カダヤシだったら胎生ですから卵を抱くことはないと聞いています。やっぱりメダカなんだとほっとしました。



メダカ

いきものは不思議です。カタツムリやメダカだけでなく、虫でも鳥でもまた、草花でも季節にあわせて活動しています。どうして? なんで? やっぱり不思議です。本当に不思議です。すこしでも納得できるように、少しずつでも納得できるように調べていこうと思っています。

参加・協力行事

◇高宮田んぼの楽校 4月22日(月) 協力者12名 市1名 地元6名

高宮のレンゲ畑で、東小学校の2年生(120名)の自然観察会が開かれました。「高宮地区の農地の今後を考える会」が企画し本会が協力しました。雨の心配をしていましたが晴れてよかったです。

米作り、田んぼの野草やレンゲソウとミツバチの話をきいたあと、クラスごとに分かれて田んぼに入りました。9種類の野草を見つけるビンゴ、花束や花のプレスレット作り、草笛に挑戦したりカエルを追いかけてたりして、自然をおもいっきり楽しんでいました。「花をつんだり、カエルをつかまえたりして楽しかった」など、楽しかった感想をたくさん言ってくれてよかったです。



レンゲ畑で観察

◇寝屋川市環境フェア

6月9日(日) 参加者約200名 協力者17名

第6回寝屋川市環境フェアが中央小学校で開催されました。本会からは、パネル展示と手作りコーナー(ブンブンごま、どんぐりペンダント、どんぐり工作)で参加しました。今にも降りそうな天気なので、テントの外にあるどんぐり工作の会場にブルーシートで屋根を作りました。フェア開始の10時近くから親子連れが多く来られ、初めてグルーガンを使った子どもだんだん上手に使えるようになり、満足のいく作品を作って「もったいなかった」とうれしそうに帰っていきました。(会場全体1380名)



テントの中では

自然はすばらしい シダ植物シリーズ5

ベニシダ オシダ科 *Dryopteris erythrosora* (D. C. Eaton) Kuntze

天野 史郎

ベニシダは関西では丘陵地から山地までどこにでも見られ、最もなじみのあるシダです。短い根茎からたくさんの葉を立ちあげます。芽立ち時や、葉うらの包膜が赤く色づくことからベニシダとよばれます。しかし、包膜が白いタイプが北河内でもしばしば見られ、ミドリベニシダとよばれています。包膜の色だけでなく、羽片や全体の形も異なりますが、ベニシダの種内変異と分類されています。



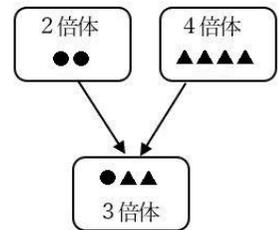
若い時期のベニシダ

ベニシダは3倍体の無配生殖種で、2倍体有性生殖種と4倍体有性生殖種の雑種起源と考えられています。2倍体とはゲノム（遺伝子の全体）を2セットもっているということです。有性生殖をする植物が生殖細胞をつくる際には、減数分裂してゲノムのセットは2つに分かれ半分になります。図のように2倍体の親から1セット、4倍体の親から2セットもらいゲノムが合計3セットとなり3倍体雑種が形成されます。遠い昔に2倍体と4倍体を両親として生まれてきたのがベニシダです。片親の2倍体有性生殖種がハチジョウベニシダであろうと考えられていますが、全体像はまだよくわかっていません。

ハチジョウベニシダはその名の通り、伊豆諸島の八丈島で発見されましたが、その後、各地で見いだされるようになってきました。筆者も兵庫県や鳥取県で見えています。いずれも社寺林の林床で長年森が保全されてきた環境です。北河内でもそれらしい個体はありましたが、胞子のうの中の胞子を数えてみると30個ほどでした。有性生殖型の胞子は元の細胞が6回分裂して64個になりますが、無配生殖型はそれより1回分裂回数が少なく32個となります。つまり北河内のものはベニシダだったということです。最近はや年のせいで視力が落ちてきたので、胞子を数える作業はきつくなってきました。

かつてハチジョウベニシダはベニシダの変種とされていたが、今では独立種とされています。進化系統的にはハチジョウベニシダからベニシダが生じたと考えられています。分類体系と進化的な見方とはしばしば異なるということです。

ベニシダは種類が多く、ベニシダがわかれば一人前といわれるくらいです。次回はベニシダとその仲間たちを紹介したいと思います。



図：3倍体雑種の形成

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「三葉虫のふしぎ1～4」に続いて、今年度は「アンモナイトの不思議I～4」をお届けしています。

アンモナイトの不思議1

「アンモナイトのいわれ」

西村 寿雄

アンモナイトと言えば、三葉虫、恐竜と並んで「化石の王様」と言われています。だいたい恐竜のいた時代(中生代約1～2億年前)に海の中で生息していた生き物です。

さて、「アンモナイト」という言葉はどこから来た言葉でしょうか。ヨーロッパの昔の人が初めてこの渦巻いたような化石を見て思ったことがキッカケです。

紀元前3000年頃、古代エジプトには主神としてあがめられていた牡羊の頭「アモン・ラー」がありました。その「アモン・ラー」の角とアンモナイト化石が似ていることにエジプトの人が気付きました。この時からアンモナイト化石は「アモンの角」と呼ばれていました。「アンモナイト」の名はそこから来ています。

その後中世になっても、ヨーロッパでは宗教色が強く、「神から授かった石」「ノアの洪水でおぼれた貝の石」とか「へびの石」などと呼ばれて恐れられていたとのことです。レオナルド・ダ・ヴィンチなどが山の上にある貝の化石はかつての海の生き物であったことを明らかにした時代です。

日本では、古くからアンモナイトを「菊石」「菊面石」と呼ばれて飾り物に使われていました。北海道では「カボチャ石」とか言って親しまれていたようです。アンモナイト化石がカボチャに見えるのでしょうか。

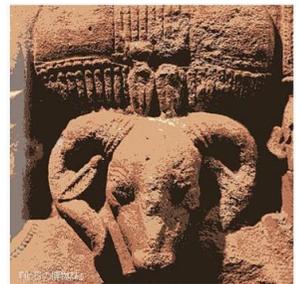
さて、アンモナイトは上記上の絵のようなくるくる巻いた貝です。巻貝のようですが、分類上はタコイカと同じ仲間、頭足類(頭の方から足が出る仲間)と言われています。現世ではオウムガイが近い仲間です。

アンモナイトの体の中はどんなになっていたのでしょうか。身体はずっと奥まで入っていませんでした。

アンモナイト自身はぐるぐる巻いた貝の先の方(住房)で生活していました。後ろの方は「気質」と言って空気をため込んでいる部屋だったのです。各気質には「細管」という連絡管があり空気は行き来していました。アンモナイトは「空気をかかえた海の生き物」だったと言えます。次回は生活のようすをお話ししましょう。



アンモナイト



牡牛の頭 頭に巻き込む角を持つ



「化石の博物館」 とぐるを巻いたへび



オウムガイ



アンモナイト

私の自然観察

身近な昆虫 45
—くさむらようちえんのたからもの—

高本 憲二

近所の保育園から園内で昆虫の観察会ができないかと、ご相談を頂戴した。
ずっと前からやってみたかった「くさむらようちえん」を提案した。

今回はその内容をご紹介します。

ちょうどこの時季には、バッタやキリギリス、カマキリなどの幼虫が出ています。お花もたくさん咲いています。周りは小さな自然の宝物でいっぱいです。

そこで、保育園の周りの草むらや花壇をよ〜く観察して、宝物をさがします。

下のような用紙に、見つけたものに○をつけます。別の場所で見つけたら◎をつけます。
もっとみつけたら花丸をつけましょうか。

用紙の真ん中には自分が見たものの中で一番気に入ったものを書きます。



室内に戻ってから、自分の一番気に入ったものについて1人ずつお話してもらいます。

○気に入ったものは何ですか？

○どこが気に入りましたか？

○その虫は何をしていましたか？

ちょっと保育園児には、難しいところがあるかもしれませんが、身近な足元の草の中にも小さな生き物の暮らしがあることに気づいてもらい、少しでも自然を好きになってもらえたらいいかなと思っています。

会員の皆さんもこの用紙の中身を書き換えて、いろんな場所で宝探しをしてみませんか？

(例) 森の宝探し、砂浜の宝探し、公園の宝探し等々

図書紹介

～こんな本が出たよ～

『リスのエビフライ探検帳』

飯田猛/著 技術出版社

「エビフライ」というと哺乳動物調査には欠かせられない情報です。よく、里山を歩くと見つかるリスの〈食痕〉です。この本は小学生中学年頃から読める構成になっています。写真や絵が大きく「科学絵本」になっていますので見やすいです。

まず、「森の小道で不思議なものを見つけました」から絵本は始まります。草原に落ちている細長いかじりあとの付いたマツボックリの写真が出ます。そして「みなさんはいったい何だと思いませんか?」と問いかけてきます。田原の里山でもよく見る動物の落とし物ですが初めて見る人には不思議なものに見えます。ページをくると食べる「エビフライ」そっくりの図が出てきます。次ページに、リスが手にして大きなマツボックリをかじっている写真が出ます。そう、これはリスのしわざだったのです。次の写真で、リスがマツボックリの「中にある種を食べていたのです」とあります。これで「不思議なもの」の正体はリスの食痕だとわかります。次に少し松の実の話や種の話がでてきます。実は「りんぺん」といって反り返っている皮の中に種が2個ずつ入っているなどの説明があります。次ページには見開きですらりと並んだ「森のエビフライ」。よくもこれだけ集めたものです。

次にシマリスの写真が出ます。寒い北海道ではハイマツやカラマツなどのタネもリスは食べるらしい。ドイツトウヒの実をいっぱいかじっているアメリカリスの写真もあります。次はエビフライのオンパレード、松の種類によってエビフライの形は少しずつ違ってきます。細長いものや太いものもさまざまあります。エビフライを作っているのはリスだけでなく、モモンガやムササビもいるといいます。最後にもう一度いろんなマツボックリが出て終わっています。森を見渡せる楽しい絵本でもあります。

2023年11月刊 1,400円

<西村 寿雄>



絵手紙紹介



新会員紹介

会員数 179名

緒方 良一

(敬称略)

内田 桂子

行事予定

□第3回定例自然観察会

寝屋川の自然観察 ～水生生物～

- ◇日時：2024年7月7日(日)
9:30～12:00 雨天中止
- ◇集合：寝屋川市役所玄関前 9時15分
又は直接幸町公園へ 9時30分
寝屋川市環境総務課と共催です。
*詳しくは連絡資料①をご覧ください。

□第4回定例自然観察会

里山の自然 四條畷・下田原

～里山樹木・野草・キノコ～

- ◇日時：2024年9月23日(月・振休)
9:30～15:00 雨天中止
- ◇集合場所：四條畷霊園バス停付近
- ◇集合時刻：午前9時30分
- ◇持ち物：弁当、水筒、雨具等
- ◇案内：田中英明さん 上田 豪さん
身近な自然ガイドブック「里山を歩こう」
参加の申し込み不要、当日集合場所へ

□第3回みんなの掲示板

伊吹山・山室湿原

～高山植物・湿原の自然～

- ◇日時：2024年7月23日(火)
7:30～18:30 雨天中止
- ◇集合：アルカスホール前 7:30
- ◇参加費：7,000円程度 定員25名
- ◇参加申し込み：7月15日までに下記へ
中村 090-8750-5738
千田 090-4036-0719
*マイクロバスを利用します。



ナヨクサフジ 2024.5.5 淀川

子ども自然列-ズ 講座

<第4回>

「夏休み自由研究のヒント」

- ◇日時：7月13日(土) 10:00～12:00
- ◇参加対象：小学生 20名
- ◇プログラム
 - ①「生きもの大好き」～昆虫の観察～
 - ②「木の葉の観察」
 - ③楽しい工作「お楽しみ」

<第6回>

「おもしろ科学実験」

- ～見れども見えない不思議～
- ・科学工作「きつつき」もあります
- ◇日時：8月3日(土) 10:00～12:00
- ◇参加対象：小・中学生 20名

- *第4回参加者には、メダカのプレゼントがあります。
- *参加申込7月2日から *参加費 無料
- *会場：自然体験学習室 Tel 072-839-6882

☆寝屋川市自然を学ぶ会のホームページ

スマホなどで、「寝屋川市自然を学ぶ会」で検索すると、CC-NET のページに移動できます。ページ内から、会報のページに移動すると、全ページカラー版の会報がご覧いただけます。ご活用下さい。



ハッチョウトンボ(山室湿原)

編集後記

~~~~~

本会発足25年目の会報97号をお届けします。  
 昨年度積水ハウスマッチングプログラムの支援を受けてカラー頁を6頁にすることができましたが、今年度も観察の記録などより豊かにできればと継続して行く予定です。  
 身近な自然も不思議いっぱい楽しいです。はて(?)を互いに交換できればと思います。「私の散歩道」原稿を寄せて下さい。みんなで楽しい会報をつくりたいと思います。

~~~~~

〈2024年度総会から〉

発足25年目の今年度も「自然はおもしろい」を幅広く!!

山田 晃

4月29日(土)に寝屋川市民会館第1会議室で、2024年度の総会と講演会を開催致しました。参加者43名。例年通り、昨年度の事業報告の後、今年度の活動計画が決まりました。

・自然観察会への積極的な参加を今年度も!

昨年度、身近な自然ガイドブック「秋の淀川」を発刊することができ、秋に淀川の自然観察会を実施することができました。春の淀川とは違った秋の淀川の自然について、オニグルミの果実を観察したり、クコやワタの花を観察してみんなで楽しみました。

今年度は、本会発足25年目、「自然はおもしろい」を幅広く進めていければと思います。身近な自然の不思議にチャレンジし、仲間と交流していきたいと思っています。

・自然体験を子ども達と共に!

環境フェアをはじめフェット・エスポアールや市民ふれあいフェスタなど参加行事でも多くの子も達や市民の方々とも自然体験を楽しんできました。子ども達と一緒に活動を共にすることは、より幅広い「自然はおもしろい」を広げ、深めることかと思ひます。今年度もご協力よろしくお願ひします。



2023年度展示会のようす

そのために、会報発行の工夫や、ガイドブックの活用をすすめ、活動の記録の集約と交流のために第25回展示会を実施します。会員の皆さんのご支援をお願いします。

〈2024年度 記念講演〉

シダ観察は楽しみ ~河内森周辺のシダ~発行に寄せて

講師 天野史郎さん



講演中の天野さん

講演では『シダ観察の楽しみ』をテーマに河内森周辺で見つけたシダについてわかりやすく、時には専門的に、時にご自身の心情も吐露されるなど興味深く聞かせていただきました。

南米(約3560種)や東南アジア(約4500種)に多いのは想像がつかしましたがヨーロッパはたったの150種とは思ひもよりませんでした。因みに日本では約600種だそうで、多い方ですかね。カニクサはコンクリートなどの擁壁にへばりついているので雑草と見間

違ひますね。ハナワラビのお話では、発見した種の分類を巡っての論争は感情もこめてお話され、分類の仕方の難しさを感じると同時に、天野さんのシダに対する熱意が充分伝わってきました。

シダは目立たない植物ですが、天野さんの熱意溢れるお話を聞かれて私だけでなく参加されていた皆さんも明日にもシダ観察に出掛けられるのではないのでしょうか。

(中村清秀)



秋の淀川 観察会

図書紹介

~こんな本が出たよ~

『リスのエビフライ探検帳』

飯田猛/著 技術出版社

「エビフライ」というと哺乳動物調査には欠かせられない情報です。よく、里山を歩くと見つかるリスの〈食痕〉です。この本は小学生中学年頃から読める構成になっています。写真や絵が大きく「科学絵本」になっていますので見やすいです。

まず、「森の小道で不思議なものを見つけました」から絵本は始まります。草原に落ちている細長いかじりあとの付いたマツボックリの写真が出ます。そして「みなさんはいったい何だと思ひますか?」と問いかけてきます。田原の里山でもよく見る動物の落とし物ですが初めて見る人には不思議なものに見えます。ページをくると食べる「エビフライ」そっくりの図が出てきます。次ページに、リスが手にして大きなマツボックリをかじっている写真が出ます。そう、これはリスのしわざだったのです。次の写真で、リスがマツボックリの「中にある種を食べていたのです」とあります。これで「不思議なもの」の正体はリスの食痕だとわかります。次に少し松の実の話や種の話がでてきます。実は「りんぺん」といって反り返っている皮の中に種が2個ずつ入っているなどの説明があります。次ページには見開きですらりと並んだ「森のエビフライ」。よくもこれだけ集めたものです。



次にシマリスの写真が出ます。寒い北海道ではハイマツやカラマツなどのタネもリスは食べるらしい。ドイツトウヒの実をいっぱいかじっているアメリカリスの写真もあります。次はエビフライのオンパレード、松の種類によってエビフライの形は少しずつ違ひています。細長いものや太いものもさまざまあります。エビフライを作っているのはリスだけでなく、モモンガやムササビもいるといひます。最後にもう一度いろんなマツボックリが出て終わっています。森を見渡せる楽しい絵本でもあります。

2023年11月刊 1,400円

<西村 寿雄>

絵手紙紹介



内田 桂子

新会員紹介

緒方 良一
(敬称略)

会員数179名